

さかど

ロイヤルの園だより

発行
(福)栄光会
さかどロイヤルの園
坂戸市大字森戸739-1

「二年目」

二層瑠璃のくんだり
介護職員

介護職として二年間働いた経験を振り返ると、多くの学びと成長がありました。初めは不安もありましたが、次第に自信を持てるようになり、「ご入居者との信頼関係を築くこと」の大切さを実感しました。ご入居者一人ひとりに寄り添い、身体的なサポートだけでなく、精神的なサポートも提供することの重要性を学びました。また、介護の仕事は体力的にも精神的にもきついですが、先輩たちのアドバイスや励ましが大きな支えとなり困難な状況でも乗り越える力となりました。介護技術も少しは向上できたと感じました。三年目はもっと介護技術を身につけ小さなミスを減らし去年よりもうまく介助できるようにがんばって学んでいきたいと思っています。

また、昨年末に感染症拡大を経験しました。改めて感染症の怖さを実感しました。日々油断せず消毒や手洗いの徹底を行っていき、感染対策をしっかりとってご入居者へ感染を広げないよう努力していこうと思えました。

「認知症」

一層瑠璃のくんだり
介護職員

皆さんは認知症と聞くとどのような想像をされますか。元々は皆さんご存知の通り痴呆症と呼ばれていましたが、蔑視・侮辱的な意味を持ち、家族やご本人のプライドを傷つけてきました。認知症の無理解はケアを阻むものというところで認知症と呼ぶようになったそうです。認知症と聞くと良くないイメージが思い浮かびがちです。普段していたことが出来なくなる、数分前伝えたことを忘れてしまう、色々な症状があります。しかし、そんなことばかりではありません。この仕事をしていると認知症の方に驚かされることも多いです。例えば、終日オムツをしていて職員の介助があれば手すりに捕まり立つことが出来る方がいらっしやいました。「ご本人に無理の無い程度に様子を見ながらトイレ誘導を行うと、ある時ご自身でトイレに座って排泄を行っていました。認知症の方は忘れることばかりではありません。思い出すこともあるのだなと驚きました。また、職員の名前は覚えられなくても、職員の顔を見るだけで「あなたの顔が見たかった。」と安心したよ。」と何となく覚えてくれていたことも多いです。安心している様子を見ているだけでこちらも仕事のやりがいがあるなと感じさせていただいています。

「挨拶」

三層亜麻のくんだり
介護職員

介護の仕事は『全部やってあげる』ではなく自立支援、日常動作を安全に行えるためにサポートする仕事でもあります。まだまだ認知症の方から学べることは沢山、無限にあると私は思います。これからも介護の仕事に誇りを持ってケアを行っていききたいです。

私がさかどロイヤルの園施設で働き始めてから八か月となります。私が勤務初日に一番強く感じたのは、職員さんからの挨拶です。とても嬉しく心に染み気持が和らぎました。挨拶って大切ですね。



「四層 ひな祭り」

は戸惑いなども有りましたが、皆さんの親切な指導により今日にいたっております。私の母は、一年前にさかどロイヤルの園と同じような施設に入りました。家族としては施設職員の対応、安心安全な生活が出来ているのかと、とても心配ですが、この施設では職員の方々のご入居者への対応や、組織の仕事への取り組み姿勢がとても良いと思います。今私は、この組織の一員であることを胸に日々努力して参りますので、今後ともご指導を宜しくお願い致します。

「おはようからお休みまで・・・のその後」

二層鴉のくだり

介護職員

「昔前」おはようからおやすみまで』というキャッチコピーをライオンが使用していましたね。そしていま私は『おやすみからおはようまで』の仕事をしています。

二十時、まだ眠れない。入居者が四名、リビングで過ごされています。C様とD様は話には加わらず、美味しそうな飲食店特集の番組を観ています。少しすると別の夜勤者から内線がありました。「嘔吐された。入居者がいるので手をかしてほしい」とのこと。よきたと二つ返事で手伝いに行きました。幸いにもその方は体調が悪化するこ

「正常化の偏見」

四層亜麻のくだり

介護職員

正常化の偏見という言葉があります。危険や脅威を無視して「大事にはならない」「自分は大丈夫」と思い込む心の動きの事です。分かりやすく言うと、災害警報が出ているけれど避難しなくても大丈夫だろう。ウクライナで起きているこ

とは日本では起きないだろう。など「ありえない」「たいしたことない」と考えてしまう心理状況に陥ってしまう事です。

東日本大震災から十四年が経ちました。日本は災害の多い国ですが、近年は日本の色々な土地で災害が増えています。正常化の偏見が働くこと避難や初動対応の遅れの原因となる場合があります。日頃からどう対応するべきかを考えて、楽観視せずに冷静に行動する事が大切になります。

硬い話になってしまいました。四月は年度初めです。ひとりですることには限界がありますが、他人に思いやりを持って自分の出来る事を増やしていければ、支え合う関係を築いていけるのではと思っています。

「手帳について」

事務所

生活相談員

相談員業務を行うことになり、四年が経過して自分の年齢も五十歳を超えました。今までは、少しのことであれば覚えていられたのですが、徐々に怪しくなってきました。以前はポケット手帳を使いながら、日程の調整や予定の組み換えを行っていたのですが、最近は記入する内容、事項が増えてきていて、まかないきれなくなっていました。

そんな中、システム手帳の使い方のウェブ情報にあたり、「あつこれだ」と手を出し始めました。手帳というより日記に近い使い方になります。毎日の予定を朝に考え、一日の反省を夜に行うルーティンを繰り返している、計画的に物事を進められているような気になっています。自画自賛になっているとは思いますが、行き詰っている状況を打破するためには、いろいろと試してみるものだと今は思いました。

自分からアンテナを伸ばすことで、今回はシステム手帳という新たなやり方に、気づくことができました。自分からアンテナを伸ばし探さなければ、何も変わらず困難な

状況が続いていたと思うと、こうした気づきを大切にしていくなことが、仕事をする上で必要な時期が来ると思わされた事柄でした。

「小説を読む楽しさ」

三層瑠璃のくだり

介護職員

私は子供の頃からアニメが好きで、暇さえあればよくアニメを見ている子供でした。大人になってからもアニメを見る習慣は変わることはありませんでした。最近ではアニメの続きが気になること、そのアニメの原作の小説があると購入して読むようになってしまいました。もともと、小説を読むことも好きではありましたが、読みたいと思う小説に中々出合えずにいたところに、アニメの原作小説という今まで読んだ事のない新しいジャンルの小説と出会い、久しぶりに小説を読む楽しさを感じています。一度読み始めると時間を忘れて読んでしまい、気が付くと夜中になっている事もよくあり、気を付けようと思いつつ、つい楽しくて夜更かしをしてしまっています。私にとってアニメを観たり、小説を読むことが癒しになり、ストレス発散にもなるので、これからも楽しく続けていきたいと思っています。

「二層亜麻・鴉 ひな祭り」

